

## パネル発表「理科室にウサギがやってきた！3年目の実践記録」

草野 健

### 1 理科室にウサギがやってきた

#### (1) 理科室前に掲示板ができた

平成17年の春、理科室前の廊下に掲示板ができました。掲示板の活用方法として理科の学習に関係する話題や作品を掲示するだけでなく、掲示板前で生き物を飼育する試みを行いました。廊下で飼育することであらゆる児童が生き物を観察できる場を設けたのでした。

#### (2) そして、ウサギがやってきた

同時期から理科室でウサギの飼育を始めました。

ウサギを飼育する上での基本として「来るもの拒まず去るもの追わず」を決めました。当番制で責任感を育てるのではなく、学校や家庭で疲れた心を癒す場所や異学年の児童と交流できる場所を目指しました。

すると、早速生活面にやや問題を抱える児童を含む数名が積極的に世話をを行うようになりました。

世話を積極的に行った児童たちは、ウサギを紹介する掲示物を作成したり、健康診断をしてくれる獣医さんにお礼のカードを贈ったりしました。私は、児童の新しい居場所ができたという実感と共にウサギに集まる児童の心や普段の行動について興味を持つようになりました。

### 2 2年目の飼育活動

#### (1) 6年女子O

Oは、4月になってすぐに世話をしたいと申し出ました。吹奏楽サークルや委員会活動でも積極的に活躍していた児童でした。4月当初は毎日のように世話に来ていましたが、吹奏楽の練習が始まるようになると、ほとんど世話に来なくなりました。しかし、練習の合間にウサギの様子を見に来ることもあり、本人にとって良い気分転換になっているようにうかがえました。

#### (2) 6年女子M

Mも同様に4月になってすぐに世話をしたいと申し出ました。Mは、昨年度ヤマメ飼育係の活動で得意の漫画を描いてポスターを作ったり、総合学習の発表で落語を披露したりした児童でした。そのような独特

な能力を発揮する反面、理科の学習でのレポートは乱雑であったり、提出期限を守れなかったりしていました。生活を見ていると、どちらかというところ集団より個を好むタイプのものでした。

クラスの仲間が休み時間にドッジボールをしているときにウサギの世話に来ていたので、話を聞いてみました。どうやら運動は嫌いなようでした。しかし、夏から秋にかけては、たびたび休み時間にクラスの仲間とドッジボールをする様子が見られ、ウサギの世話に来なくなりました。

### 3 3年目の飼育活動

#### (1) 事件発生

3年目は、低学年の児童がウサギに興味を持つようになりました。すると、エサ箱にトイレ用の砂が入れられる事件が起きました。また、たびたびケージ周りにエサが散乱するようになりました。掲示物を作って注意を促しましたが効果はありませんでした。

#### (2) お世話免許

そこで、ウサギと触れ合うためのルールを少しでも身につけさせるために、免許制度を取り入れました。ウサギと触れ合いたい児童は試験を受けて、その得点に応じて級が決まり、免許が発行されます。そして、級に応じた世話ができるのです。

免許制度の効果か、以前のような事件は減少しました。また、免許をもらえることが児童の満足感や充実感につながっているような話も聞きました。

### 4 まとめ

これまでの実践から、特に高学年でウサギとの係わり合いを求める児童は、生活面にやや問題を抱える児童が多いことが分かりました。飼育活動がそのような児童の癒しの場になっているようなので、飼育活動の様子を担当教諭に伝えることが理科室担当者として必要なことであると思いました。

(昭和女子大学附属昭和小学校教諭)